

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『チャレンジ・つながる・自立』をキャッチフレーズに、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用して、家庭や地域、関係機関等と連携を深めながら、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参画に必要な資質・能力を培う教育を推進する。	
○ チャレンジ	： 未来の「なりたい自分」「ありたい姿」に向かって、粘り強く挑戦していく姿勢を育む学校
○ つながる	： 多様な学びの機会を通じて、自他のよさや違いを認め合い、尊重する意識・態度を育てる学校
○ 自立	： 他者と協働しながら主体的に役割を果たし、自分らしく社会に貢献していく力を育てる学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上 ＜学校教育自己診断の保護者評価「個に応じた目標設定」R10 に 93％以上（R 5 ;86％、R 6 ;84%、R 7 ;89%）＞ <u>キャッチコピー：先生が輝くと、子どもも輝く！</u> (1)特色ある教育活動を通じて、知的障がい教育の充実を図り、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす学校づくりを推進する。 (2)計画的な研修と日常的な OJT を組織的に推進し、教職員全体の指導力・授業力を高め、社会の変化に対応できる『学び続ける教職員』を育成する。 (3)校内体制を整備し、ICT とアナログ教材の良さを活かした授業改善を進めるとともに、研修や好事例の共有を通じて組織的な取組みの充実を図る。	
2 キャリア教育の充実 ＜学校教育自己診断の保護者評価「進路や職業」R10 に 93％以上（R 5 ;88％、R 6 ;90%、R 7 ;88%）＞ <u>キャッチコピー：小さな「できた！」の積み重ねで「大きな未来」へ！</u> (1)キャリア教育を基盤に、総合的な探究の時間や職業教育を通じて販売学習などの実践的活動に取り組み、課題を解決する力と他者との協働力を育成する。 学校経営推進費（R 7）『学びのエンゲージメントを高めて「チャレンジ・つながる・自立」する泉北レモンプロジェクト ～ 地域とつながり、地域に貢献する ～ 』 ①学びのエンゲージメントを高め、自立・自己実現を支援する。 ②地域の方々や企業・他校との連携を強化し、卒業後に地域で生活する基盤を自らつくる。 ③体験的で深い学びを実現する授業づくり。 3 年目（R 9）の評価指数 ・レモンを活用した製品を制作して販売 年 3 回以上 ・他校や地域と泉北レモンを通じた交流 年 3 回以上 ・学校教育自己診断（生徒）「授業や行事、部活動で他の学校や近所の人と交流することがある」の肯定率 70％以上[R 6 ;51%、R 7 ;50%] ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の肯定率 85％以上[R 6 ;73%、R 7 ;91%] ・学校教育自己診断（教員）「年間の学習計画について、学年・教科・学習グループでよく話し合っている」の肯定率 75％以上[R 6 ;72%、R 7 ;73%] (2)自立した社会人としての資質を涵養し、時間と場を尊重しながら主体的に行動する力を育成する。 (3)円滑なコミュニケーションを通じて社会人基礎力を培い、主体的に行動し地域とともに生きる力を育成する。	
3 信頼される学校づくり ＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均) R10 に 85％以上（R 5 ;84％、R 6 ;78%、R 7 ;78%）＞ <u>キャッチコピー： 「生徒」「保護者」「教職員」「地域」みんなが上機嫌な学校！</u> (1)交流及び共同学習を通じて人との関わりを深化させ、地域支援・地域連携を通じて社会的適応力と主体的行動力を育成する。 (2)人権感覚を高め生命の尊さについての理解を深め資質向上を図り、安全で尊重し合える学校づくりを推進する。 (3)危機管理体制の構築や防災教育の充実、食物アレルギー事故防止等の徹底を通じて、安全・安心な教育環境を確保し持続可能な学校運営を実現する。	
4 働き方改革の推進 ＜学校教育自己診断の教職員肯定的評価「意欲的に取り組める環境」R10 に 80％以上（R 5 ;64％、R 6 ;68%、R 7 ;66%）＞ <u>キャッチコピー：何を言っても・聞いても大丈夫 困った時はお互い様 皆が安心 良い職場！</u> (1)大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、ワーク・ライフ・バランスの向上を重視した働き方を推進するとともに、ICT の活用と業務の見直しを進めて校務の効率化を図り、教職員の健康保持と教育の質的向上を両立させる学校運営を実現する。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	進捗状況
1 知的障 がい教育の専門性向上	(1) 特色ある教育活動の 推進 ＜泉北レモン PT＞	ア ・職業でレモンデザインの商品を作成し、販売 学習に関連付ける ・総合、職業以外の授業でもレモンを題材に授 業を展開する。(性質・気候・育成・産業等) ・教科横断的な学びとなるようにシラバスの 見直しを進める	ア ・総合、職業以外の教科でレモンを題材 とした授業展開 年 6 回以上[新規] ・レモンデザインの製品製作 年 2 個以上[新規]	
	＜全校・管理職＞	イ ・授業の初めに、本時のねらいを明確に示すと ともに、ねらいに沿った振り返りを行う	イ ・校長の授業観察時に「ねらい」の確認 授業の最初にねらいを示す 100%実施 [新規]	
	＜全校・管理職＞	ウ ・授業で作業や考察の時間を区切る時は、視 覚・聴覚で明確に分かるタイマーを活用し、見 通しを持たせる	ウ ・校長の授業観察時に授業で時間を区切 る時のタイマー使用率 100% [新規]	
	＜全校・管理職＞	エ ・生徒が「当たり前」にできている望ましい行 動に着目して言語化し伝えることで、行動の 維持を図り、減少を防ぐ	エ ・学期末毎に「望ましい行動への着目」 に関する教職員アンケート 年 3 回 [新規]	
	(2) 学び続ける 教職員集団の育成 ＜研究支援部＞	ア ・地域支援を含み、効果的な研修を実施し、教 員の専門性向上を図る	ア ・授業づくり研修 学年単位研究協議 年 1 回以上 ・自立活動実践研修会 年 1 回以上 ・水上安全講習会 水泳授業開始前に 1 回以上 ・地域支援整備事業 公開研修 夏季休業中に 1 回以上 ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「計画的な研修」90%以上維持[93%]	
	＜研究支援部＞	イ ・授業を担当する教員全員が、校内公開授業期 間に互いの授業を見学し、専門性の継承を進 める	イ ・授業見学及び授業の工夫を記入する カードの提出 年 1 回以上維持 [年 1 回]	
	＜進路指導部＞	ウ ・教員向けに就労選択支援事業の概要説明お よび各学年における進路指導の留意点を伝達 する	ウ ・各学年会にて実施 年 1 回以上維持 [年 1 回]	
	(3) ICT 活用の促進 ＜情報文化部＞	ア ・ICT 機器の整理・整備とともに、新たな機器 設置を行い、積極的な情報発信により効果的 な活用を推進する	ア ・HR 教室のモニタ等機器類、 設置率 85%以上[71%] ・情報文化部通信の発行 学期 1 回以上 [新規]	
	＜全校・管理職＞	イ ・デジタル機器を有効に活用するとともに、手 作業等のアナログな活動も充実させる	イ ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「授業の工夫」71%以上[68%]	
2 キャ リア教育の充 実	(1) キャリア教育の推進 ＜泉北レモン PT＞	ア ・1 年総合で健康と関連付け、食品レシピを考 案、2 年総合で SDG s と関連付け、枝葉を活用 した製品を考案、それぞれ企業等と連携して 商品化をめざす ・3 年 L C（職業）で商品を接客・販売する	ア ・レシピ考案、商品化 2 個以上 ・枝葉活用製品、試作 3 個以上 ・販売学習での接客・販売 年 2 回以上 [新規]	
	＜進路指導部＞	イ ・校内実習を通して働くために必要な力への 理解を進める際、委託作業に取り組むことで、 社会とのつながりや卒業後の活動の場を意識 すること、仕事への責任感を養う	イ ・連携企業・事業所からの委託作業を 全学年・全グループにて扱う 年 2 回を維持[年 2 回] (アセスメントを行う 1 年時 6 月を 除く)	
	＜販売学習 PT＞	ウ ・外部機関と連携し、作品展後の商品を活用し て販売実習を実施する。これまで平置きであ ったものを立体的に展示する、看板等で視覚 的な情報を増やす等、作品の展示方法を改善 することでお客の興味を引き購買を促す	ウ ・販売ブースの環境改善・展示方法の 工夫を行った外部（地域の施設等）で の販売実習実施 年 2 回を維持 [年 2 回]	
	(2) 社会人としての資質 の涵養 ＜全校・管理職＞	ア ・社会に送り出す学部として、個々の実態に応 じながらも、授業はできる限り教室内で受け ることができるように支援する	ア ・5 月と 1 月の教職員アンケートにより 生徒の授業参加率を比較 [新規]	
	(3) 社会人基礎力の育成 ＜生徒指導部＞	ア ・校内外で、目的と目標を確認しながら挨拶運 動を実施し、自然に明るく挨拶ができる他者 との関わりの基礎を育む	ア ・あいさつ運動 年 10 回以上維持 [10 回] ・実施日程の自治会への連絡 [新規] ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「生徒会」80%以上[76%]	

3 信頼される学校づくり	(1) 交流及び共同学習・地域支援・連携の推進 ＜泉北レモン PT＞	ア ・レモンの取組みにおいて、高校、高齢者福祉施設、出前授業の活用、企業との連携を通して人と関わる実践的な学びを広げる	ア ・学校間交流 年 2 校・ 5 回以上 ・地域・企業連携 年 1 社以上 ・連携に関する情報発信 年 2 回以上 ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「学校・地域交流」 88%以上[85%]	
	＜研究支援部＞	イ ・LS 以外の教員も泉北ブロック会議に参加し後進の育成を進める	イ ・LS 以外の教員のブロック会議参加 年 3 回以上[新規]	
	＜管理職＞	ウ ・本校に進学してくる関係支援学校との教員間や保護者間の連携を図り、小～高の一貫した教育をめざす	ウ ・教員交流 年 1 回以 ・保護者交流 年 1 回以上 [新規]	
	(2) 人権感覚の深化 ＜校内 WG＞	ア ・子どもの人権を尊重し、規範意識を持った生徒への指導支援に向けた教職員研修を実施する	ア ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「人権尊重」 95%以上維持[95%]	
	＜保健体育科＞	イ ・「生命（いのち）の安全教育」を実施し、全学年において、性教育の取組みを推進する	イ ・学校教育自己診断生徒肯定評価 「人権教育」 78%以上[75%]	
	＜研究支援部＞	ウ ・SNS 等の利用やネットトラブル、いじめの防止に関する教育を実践する	ウ ・道徳の授業において情報モラルに関する指導 各学期 1 回維持 ・学校教育自己診断生徒肯定評価 「いじめの対応」 65%以上[61%]	
	(3) 学校安全体制の構築 ＜防災 PT＞	ア ・福祉避難所の運営を想定し、学校で生徒と避難生活を過ごす体制を考え訓練する	ア ・福祉避難所の運営を想定した 図上訓練実施 年 1 回 [新規]	
	＜防災 PT＞	イ ・被災時に不足することが想定される人員や物資・場所確保のため、近隣の公共施設や団体に対して BCP をもとに本校の被災時における想定等を説明し、援助の依頼を行う（バス運行時の駐車場所・停電や断水時などの一時避難先を含む）	イ ・非常時の物資や人材、スペースの提供等について協定を結ぶ 1 団体以上 [新規] アイ・学校教育自己診断生徒肯定評価 「危機管理」 93%以上[90%]	
	＜環境保健部＞	ウ ・年度当初のマニュアル配付と説明、食物アレルギーに関する研修の実施、授業や行事に必要な準備の様式を簡潔化により、絶対に食物アレルギー事故を起こさない体制を構築する	ウ ・食物アレルギー研修実施 年 1 回以上 ・行事前のアレルギー対策会議の実施 年 1 回以上 [年 1 回]	
	＜全校＞	エ ・授業に向かう際は、できるだけ早く職員室を出て教室に入り、前の授業担当者と生徒の情報共有を行うとともに、生徒の見守りを強化する	エ ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「円滑な連携」 78%以上[73%]	
4 働き方改革の推進	(1) 実施計画に基づいた働き方改革の推進 ＜全校・管理職＞	ア ・会議日程や方法を検討し時間削減を図るとともに、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う	ア ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする	
	＜全校・管理職＞	イ ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる	イ ・ストレスチェック総合健康リスク R 7 を下回る [106]	
	＜全校・管理職＞	ウ ・教職員同士が気持ちよく業務を行えるよう、なんでも相談できる職員室の雰囲気をつくる	ウ ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「教職員間での話し合い」 93%[90%]	
	＜全校＞	エ ・提案に課題を述べるときは、併せて代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う	エ ・学校教育自己診断教職員肯定評価 「会議が有効に機能している」 86%[83%]	
	＜全校＞	オ ・行事の検討、校務の推進等において、教育効果の向上を図るとともに働き方改革を進める	オ ・学校教育自己診断生徒肯定評価 「学校行事が楽しい」 88%[85%] ・ストレスチェック偏差値向上 「仕事の質的負担」 35 [32] 「仕事の量的負担」 37 [34]	
	＜情報文化部＞	カ ・ICT 利活用向上のための研修を実施し、活用を促進させ円滑な業務促進を図る	カ ・ICT 活用研修の実施 年 2 回以上 ・職員会議を活用した利活用促進プロモーションの実施 年 4 回以上[新規]	
	＜全校＞	キ ・アンケートを行う際はフォーム作成ツールを活用し、集計業務を削減する	キ ・年度末にフォーム作成ツール活用アンケートの実施 [新規]	
	＜全校＞	ク ・授業準備、文書作成、アンケート分析等で生成 AI を積極的に活用し、業務の効率化を図る	ク ・校務での生成 AI の使用学期 1 回以上全教職員 [新規]	